

〈幼稚園人間関係〉

互いを認め合い、育ち合う仲間関係の育成 ——遊びや振り返りの場における伝え合いを通して——

うるま市立伊波幼稚園教諭 松川 ちどり

I テーマ設定の理由

近年、社会の変化により、人間関係の希薄化、コミュニケーション能力の低下が懸念されている。実際、幼児の遊びも変化しており、直接的な人との関わり合いや、言葉での伝え合いの減少等の問題から、幼児期の遊びを大切にした質の高い幼児教育が求められている。

友達との関わりが盛んになり、社会性が著しく発達していく幼児期において、『幼稚園教育要領解説』第1章「幼稚園教育の基本」では、「相互に関わることを通して、幼児は自己の存在を確認し、自己と他者の違いに気づき、他者への思いやりを深め、集団への参加意識を高め、自律性を身に付けていく。」とある。また、「友達との関わりの中で相互に刺激し合い、様々なものや事に対する興味や関心を深め、それらに関わる意欲を高めていく。」とあり、幼稚園生活において、「幼児が友達と十分に関わって展開する生活を大切にすることが重要である。」と示されている。学習指導要領が示す学びの改革や、沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡにおいて、「主体的、対話的で深い学び」の視点が重要視される中、領域「言葉」では「友達や教師の話聞くことなどを通じ、言葉を使って表現する意欲や、相手の言葉を聞こうとする態度を育てることが大切である。また、幼児のものの見方や考え方も、そのように言葉によって伝え合う中で確かなものになっていく」と示されており、幼児が他者との対話を通して深い学びへ向かう過程がより重要になっていると考えられる。

本園の幼児の実態を見ると、遊びの中で他児に興味を示さず一人遊びに満足している、友達と遊んでいても、遊びたい方向性が違ってくると関わることをあきらめてしまう等、友だちとの関わりへの意欲が続かず、自分の気持ちを言葉で伝える必要性を感じていないのではないかと捉えられる場面が多くある。一方で、気の合う友達と活発に遊ぶ中で、自分の思いや考えは積極的に話しているが、友達の話は聞こうとせず話を遮ったり、自分とは異なる考えを否定したり、相手の思いや考えを受け入れられない姿や自分の思いを伝えることが苦手な姿も見られる。

これまでの私自身の保育を振り返ってみると、園生活や遊びの中で幼児同士の関わり合いを深める活動の展開を工夫していたが、その後の関わりにつながるような変容があまり見られなかった。また、対話を通して、幼児同士が共に試行錯誤しながら、問題や課題への解決策を探っていくための援助や、互いを肯定的に受け止め認め合える援助の工夫が足りなかったのではないかと考えた。

そこで本研究では、幼児が友達と関わって生活していく中で、関わり合いを楽しみ、伝え合うことに楽しさや喜びを味わえるような教師の言葉かけや環境構成を工夫し、幼児の発達を捉えた活動の充実に努めていきたい。また、伝え合いを通して心を通わせ合う中で、互いに刺激を受け合い認め合う経験を重ね、生活や遊びを共に進めていこうとする仲間関係を育む教師の援助の在り方について研究を深め、保育実践へとつなげていきたいと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

互いの思いや考えを伝え合うことを通して、互いを認め合い、育ち合う仲間関係を育むための援助の方法を研究する。

III 研究仮説

1 基本仮説

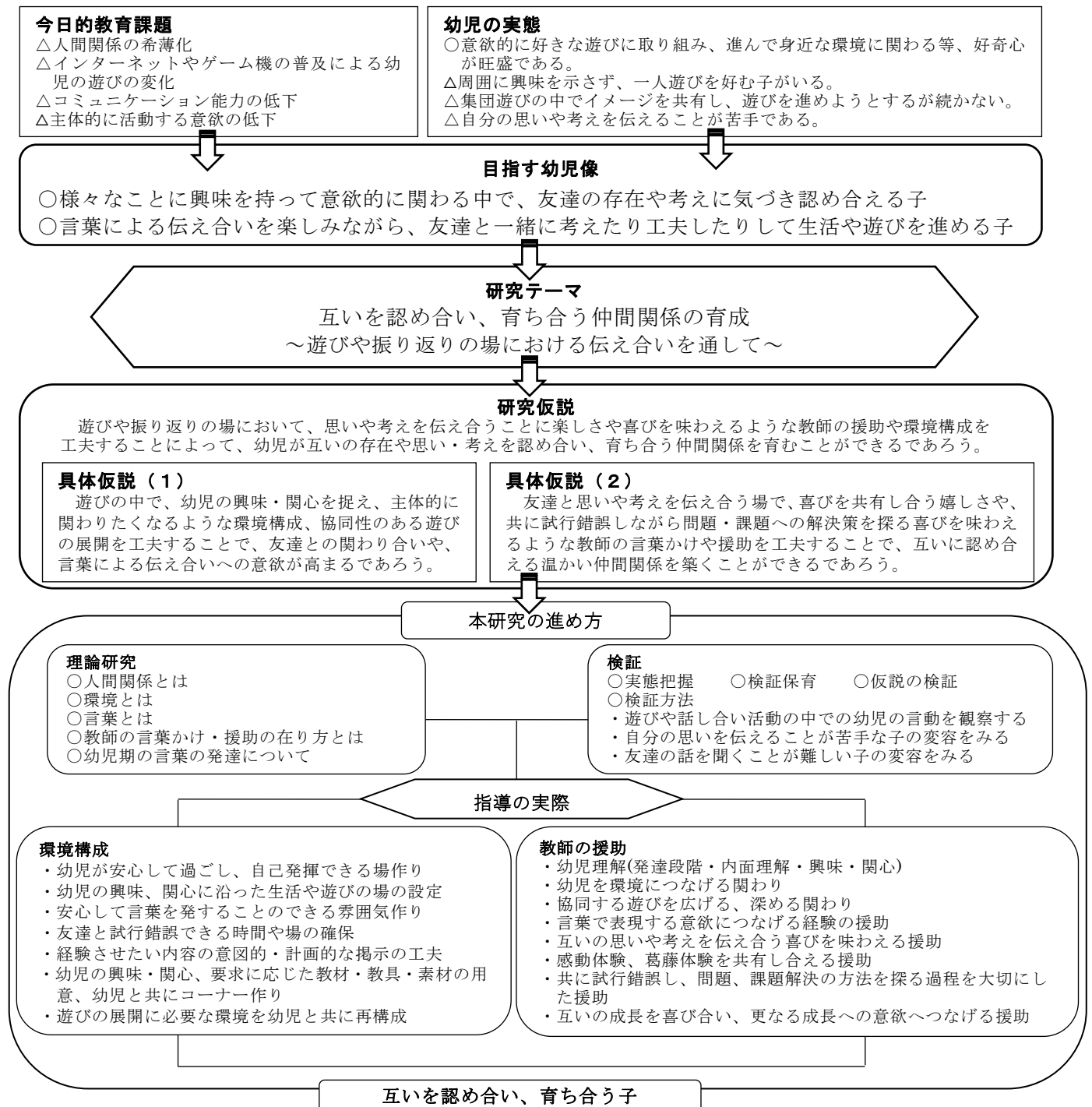
遊びや振り返りの場において、思いや考えを伝え合うことに楽しさや喜びを味わえるような教

師の援助や環境構成を工夫することによって、幼児が互いの存在や思い・考えを認め合い、育ち合う仲間関係を育むことができるであろう。

2 具体仮説

- (1) 遊びの場において、幼児の興味・関心を捉え、主体的に関わりたくなるような環境構成、協同性のある遊びの展開を工夫することで、友達との関わり合いや、言葉による伝え合いへの意欲が高まるであろう。
- (2) 友達と思いや考えを伝え合う場で、友達と喜びを共有し合う嬉しさや、共に試行錯誤しながら問題・課題への解決策を探る喜びを味わえるような教師の言葉かけや援助を工夫することで、互いに認め合える温かい仲間関係を築くことができるであろう。

IV 全体構想図



V 理論研究

1 「人間関係」について

(1) 領域「人間関係」

領域「人間関係」では、「幼児は、幼稚園生活において多くの他の幼児や教師と触れ合う中で、自分の感情や意思を表現しながら、自己の存在感や他の人々と共に活動する楽しさを味わい、ときには幼児同士の自己主張のぶつかり合いによる葛藤などを通して互いに理解し合う体験や、考えを出し合ってよりよいものになるよう工夫したり、一緒に活動する楽しさを味わう体験を重ねながら関わりを深め、共感や思いやりなどをもつようになる。」と示されている。また、「何よりも教師との信頼関係を築くことが必要」とあり、それを基盤としながら安心して他の幼児との関わりが生まれ、その関わりの中で様々な心を動かす出来事を友達と共有しながら、教師や友達と共に過ごす楽しさや充実感を味わい、次第に皆と生活をつくり出していく喜びを見いだせるよう援助することが重要であると考えられる。

(2) 幼児が互いを認め合う過程

神長(2004)は、幼児が他者を理解したいという気持ちになるには、自分の気持ちが安定していることが重要であり、教師が幼児一人一人の気持ちの安定を図ることの必要性を述べている。また、『幼児理解に基づいた評価』(2019)には、「教師の幼児一人一人を大切にす姿勢が、幼児同士が互いを大切にす姿勢につながり、学級全体の温かい関係をつくり出すことにつながる」と記されている。

このことから、幼児同士の温かい仲間関係を育むためには、教師が幼児の気持ちや要求など言葉にできない思いを大切にし、内面を理解しようとする、幼児一人一人に向ける温かいまなざしや関わりが重要であると考えられる。

領域「人間関係」では、「幼児期は、嬉しい、悔しい、悲しい、楽しいなどの多様な感情体験を味わう時期であり、その気持ちに共感してくれる相手との温かな感情のやりとりを基に、友達の喜びや悲しみに心が向くようになり、次第に互いの心情や考え方に気付くようになる。」とある。幼児が友達との様々な心を動かす出来事を共有する中で、互いの感じ方や考え方に関心を寄せ、様々な感情の交流を重ね、次第に互いの違いや多様性を認め合えるようになることで、遊びや生活がより豊かになっていく体験を重ねることができるよう、教師が幼児一人一人の心情や考えを大切にすモデルとなることや、幼児一人一人のよさや育ちを周囲に知らせ、そのよさに目を向けることができるような幼児同士をつなぐ援助をしながら、一人一人の幼児が存在感を持って生活する集団の育成に努めることが重要であると考えられる。

領域「人間関係」を基に、幼児が互いを認め合う過程について図1にまとめた。

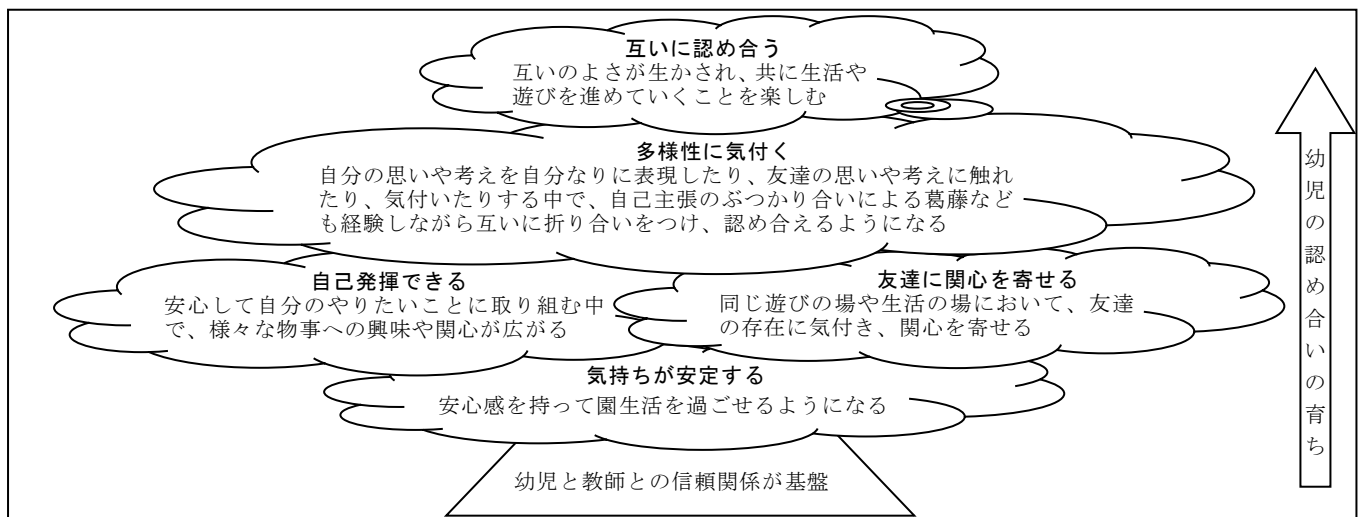


図1 幼児が互いを認め合う過程

2 「環境」について

(1) 環境を通して行う教育

『幼稚園教育要領』では、「幼稚園教育の基本」の中で「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成させるため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。ここでいう環境とは、物的な環境だけでなく、教師や友達との関わりを含めた幼児を取り巻く状況全てであり、園生活において幼児自ら周囲の環境に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして試行錯誤したり、考えたりしながら様々な活動を展開していくことができるよう幼児と共に良い環境を創造するよう努め、幼児の視点に立った教育を展開していくことが重要であると考えられる。

(2) 環境構成について

環境構成の在り方について『保育の基本と環境の構成』（2000）「幼児の生活と環境の構成」では、「子どもが環境とかかわることにより、自分自身で興味や欲求を満足させながら、発達に必要な経験を積み重ねていくことができる環境をつくりだすことが大切であり、このことが『興味や欲求に応じた環境』と言えり」と示されている。活動の主体は幼児であり、教師は活動が生まれやすく、展開しやすいように意図を持って環境を構成していくことが大切であると捉える。また、幼児が興味や関心を持って関わり、探求心を持って関わり続けるような環境の構成や工夫、また、状況に応じて幼児と共に環境を再構成していくことが重要であると考えられる。

(3) 教材について

環境を構成するにあたり必要な教材について、『幼児期から児童期への教育』（2006）「幼稚園教育の特質を踏まえた教材の選択」では、教育の営みの中で教材のもつ意味は大きく、「教師が、どのような教材を選択するかは、子どもが教材とのかかわりを通して何を学ぶのかにつながり、教育の成果を大きく左右する。」とある。また、「子どもが教材と対面し、それらとかかわる中で、子ども自身がその面白さを見いだしたり、知識を発見したり、技術を獲得したりして、教材の意味が見いだされ、教材としての価値が決められていく。」とあり、教師の教材研究の大切さや、幼児の発達を見通した教材を用意することの重要性が述べられている。しかし実際、教師があらかじめ幼児の活動を予想して用意した教材であったとしても、興味を示さなかったり、教師の予想を超えて多様な関わり方や使い方をしたりすることもある。また、教師が用意したものではないが興味を持って関わり、人やものとの関わりを深める教材となることもある。

以上のことから、教師が教材を選択し、一方的にそれを幼児に与えるのではなく、幼児の興味や関心、また、活動に取り組む中での幼児の様子など、幼児理解に基づいて教材を用意したり、幼児と一緒に教材を考え用意していくことが重要であると考えられる。

3 「言葉」について

(1) 領域「言葉」

領域「言葉」では、言葉は、身近な人との関わりを通して次第に獲得されるものであり、「教師は、幼児が言葉で伝えたいような経験を重ね、その経験したことや考えたことを自分なりに話すこと、また友達や教師の話聞くことなどを通じ、言葉を使って表現する意欲や相手の言葉を聞こうとする態度を育てることが大切である」と示されている。また、「相手との間に安心して言葉を交わせる雰囲気や関係が成立して、初めて言葉で話そうとするのである。」とあり、幼児が周囲と言葉を交わすようになるために、教師や友達との間に安心して話すことができる雰囲気があることや、気軽に言葉を交わすことができる信頼関係が基盤になることが重要であることを踏まえ、援助していくことが大切であると考えられる。

(2) 伝え合いについて

横山(2020)は、「ことばは、人とつながるための非常に重要なコミュニケーションの手段であり、ことばを通して相手の意図を知り、自分の意図や要求を伝え、ことばのやりとりを通して、こころや気持ちを伝え合う」と述べている。また、このようにことばで表現することだけが伝え合いではなく、「相手を知りたい・相手の話を理解したいと、相手の行動に注意や関心を向け、話をよく聞くことが伝え合いを支える」と述べていることから、幼児の伝え合いを育むには、自分の思いや考えを言葉で表現したくなる援助、相手のことや話に興味を持って聞きたくなる援助が重要であると考えられる。

① 伝え合いにおける「聞く」の捉え

領域「言葉」において、「幼児が自分の思いを言葉で伝えるとともに、教師や他の幼児などの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること」と示されている。このことから、相手の言葉や話に興味や関心を持って聞けるようにすること、聞こうとする気持ちを持つてるようにすることが、言葉による伝え合いができるようになるために必要な援助の視点であると捉える。また、「幼児は、周囲の人々の会話や話し方を聞きながら、様々な表現の仕方があることを学び、自分も相手に分かるように話し方を変えていくことを学んでいく。」とあり、聞くことによって、幼児の思考力や言葉に対する感覚、言葉で表現する力が養われることを十分に理解し、幼児の聞く姿を捉える際、相手の話に興味や関心を持って聞き、それを理解しようとしているか、幼児が何を感じどのような刺激を受けているのかという幼児の内面の動きを読み取ることが大切であると考えられる。

② 伝え合いにおける「話す」の捉え

領域「言葉」では、「幼児は、生活の中で心を動かされるような体験をしたときにそれを親しい人に言葉で伝えたい」と示されている。幼児がどのような状況や場面で心を動かされ、話したくなるのか、『幼稚園教育要領解説』を基に表1にまとめた。

表1 幼児の心を動かす体験

感動的体験	・自然の美しさや不思議さに触れたとき ・楽しい活動に参加したとき ・面白い物語を聞いたとき
感情的体験	・友達ともめたり失敗したとき ・悔しい思いをしたとき
好奇心 探求心 向上心	・遊びの中で新たなことを思いついたとき ・何かに気付いたとき ・疑問を感じたとき

以上のことから、幼児の心を動かす体験とは、喜びや楽しさ、悔しさや悲しさなど感動的、感情的な体験だけでなく、好奇心や探求心、向上心が高まるもの・こととの出会いや体験など、幼児がしたこと、見たこと、聞いたこと、感じたことなど全てを含んでいると捉えられる。このような心を動かす体験を幼児なりに伝えようとする思いや、相手に自分の思いを分かってもらいたいという気持ちを持つことが、伝え合いにおいて重要だと考える。そして、その思いを受け止めてくれる教師や友達の表情やあいづちなどの反応、応答性のあるやりとりから、自分の思いに共感してもらえた喜びや、思いが伝わったことに喜びを味わうことができ、自分の思いや考えを伝えることに楽しさや喜びを感じ、他者との伝え合いへの意欲が高まるのではないかと考える。

③ 遊びや振り返りの場における伝え合いについて

領域「言葉」において、「幼児は、自分の話を聞いてもらうことにより、自分も人の話をよく聞こうとする気持ちになる。」とあり、「自分の思いが伝わり、相手の話を聞いて理解したり共感したりして、言葉による伝え合いができるようになっていく。」と示されている。このことから、伝え合いにおいて聞くこと、話すことを分けて捉えて援助するのではなく、幼児の伝えたいという思いや相手の話を理解したいという気持ちを育てることが大切であり、互いに感じたことや考えたことを伝えたいような、遊びの場や振り返りの場を設定し、幼児同士が思いや考えを共有したり、友達に思いを言葉で伝える楽しさや、相手の思いに共感したりする喜びを味わうことができるようにすることが大切であると考えられる。

大豆生田(2018)は、「園生活における伝え合いの場は、他児の思いを知る場であるばかりではなく、他児が興味をもっている遊びを知る機会にもなり、情報を共有することで、自分の世界のみならず、他者の世界を知る重要な場となっている。」と述べていることから、幼児同士が伝え合いの中で互いの感じ方や考え方に気付きそこに関心を寄せ、友達と様々な感情の交流を重ねながら互いの違いや多様性を受け入れ認め合う仲間関係が育まれると考える。

以上のことを踏まえ、伝え合いを育むための援助を行う際に考慮したい幼児期における各年齢の言葉の発達の特徴、友達との関わり合いの特徴と伝え合いについて表2にまとめた。

表2 幼児期における各年齢の言葉の発達段階の特徴・友達との関わり合いの特徴と伝え合い

	3 歳	4 歳	5 歳
言葉の発達の 特徴	<p>○言葉への関心が強くなる時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙の飛躍的増加とともに三語文や多語文など話し言葉が豊かになる。 ・一人称を使うようになり、行動の正当化が始まる。 ・現在、過去、未来が区別でき、抽象語が理解できる。 ・「なぜ? どうして?」を繰り返し知識を増やしていく。 ・興味がある話を聞こうとする態度が見られるようになる。 	<p>○対話や様々な表現を楽しむ時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達との言葉によるやりとりを楽しめるようになる。 ・相手の話や言葉に興味を示す。 ・助詞や接続詞を使い理由を説明できる。 ・時間間隔の理解が進み、時間を表す言葉を使い始める。 ・外言と内言の間であるつぶやき語が多くなる。(繰り返すことによって思考・認識の手段としての言語機能が確立する。) 	<p>○自分の経験、思いや考えを伝え合うことができるようになる時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験や思い、考えを相手に伝えたり相手の話を聞こうとする。 ・理由や理屈を根拠にあげながら説明や提案ができる。 ・相手や場に応じて言葉を使いわけたり、筋道を立てて話せるようになる。 ・しりとりや逆さ言葉・反対言葉などの言葉遊びを楽しめるようになる。 ・内言が育ち自己の行動を抑制、調整できるようになる。(自制心の育ち。)
友達との 関わり 合いの 特徴	<p>○友達がいると楽しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人との関係から次第に友達に興味を持ち始める。 ・幼児同士の関わりが楽しくなり、友達と同じ空間で同じこと(平行遊び)をして嬉しさを感じる。 ・友達の遊びに興味を持ち、一緒に遊び始める。 ・友達との関わりの中で戸惑いや葛藤も生まれる。 ・自己主張から友達とのぶつかり合いを経験する。 ・困っている友達を手伝おうとして人の役に立つことを喜ぶようになる。 ・年齢の違う友達、友達の保護者など様々な人との触れ合いを楽しめるようになる。 	<p>○友達と遊ぶと楽しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びも友達と一緒にだと更に楽しいことに気付き、友達と遊びを楽しもうとする。 ・気の合う友達と好きな遊びを繰り返し楽しむ中で、友達にも考えがあることに気付く。 ・友達との関わりの中で相手の気持ちを考えて、思いやりを持つようになる。 ・遊びのルールを理解し、ルールのある遊びを友達と楽しむようになる。順番や交代を守るようになるが、競争心の芽生えから勝敗へのこだわりが強くなりトラブルも増える。 ・イメージを共有してままごとなど役を演じて遊びを楽しむようになる。 	<p>○仲間と一緒に楽しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを伝え、友達とイメージを共有して試行錯誤しながら工夫して遊びを楽しむようになる。 ・友達と話し合って役割を決めたり、遊びのルールを作ったりして仲間と一緒に遊びを発展させることを楽しむようになる。 ・仲間意識が高まり友達とのつながりを楽しんだり、集団の一員としての自覚が芽生え、遊びや生活での役割を果たすことを楽しむ。 ・友達とのやりとりから相手の思いや考えを理解し、葛藤しながらも共感したり協同したりして共通の目標に向かおうとする。 ・思いや考えの違いからトラブルもあるが、自分達で解決しようとする姿が見られるようになる。
教師の 役割	<p>○「伝えたい」思いを大切に して「おしゃべり大好き」に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい、話したい思いはあるがうまく言葉にできない姿を受け止め代弁したり、幼児の思いや考えに共感したりして、安心して言葉を発することができる雰囲気を作る。 ・友達関係をつなぐ言葉「遊ぼう」、「貸して」や、生活に必 	<p>○伝える喜びを</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達との言葉のやりとりの中であまりうまく表現できずにいるときには教師が代弁したり、表現方法を教えたりして、自分の思いが言葉によって伝える喜びを味わえるようにする。 ・友達の言葉に興味を持ち、聞こうとする姿を認め、相手の思いに気付くことができるようにする。 	<p>○伝え合う楽しさや喜びを</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活の中で伝え合う活動、話し合っ一つのことに取り組む活動の機会を設け、自分の思いや考えを伝えたり、相手の話を聞いたりすることを楽しくするようにする。 ・安心して自分の思いや考えを言葉にできるような雰囲気を作る。 ・友達の話を聞くことで相手の思いや考えを知ることができる楽しさを味

<p>要な言葉を教師が使いモデルとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の「なぜ？ どうして？」と一緒に楽しみ関心を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と思いを伝え合い、一緒に遊びを進めることを楽しむことができるようにする。 ・ 幼児のつぶやきに耳を傾け、共感したり共に考えたりする。 	<p>わえるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝え合いを通して幼児同士で考えたり折り合いをつけたり、新たな考えを生み出したりすることができるよう幼児の言葉をつなぐ。
---	---	--

4 教師の援助について

(1) 教師の役割

幼稚園教育は環境を通して行う教育であり、幼児の主体的な活動としての遊びを中心とした教育を実践することが大切であることを踏まえ、『幼稚園教育要領』では、「幼稚園教育の基本」の中で「教師は、幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。この場合において、教師は幼児と人やものとの関わりが重要であることを踏まえ、教材を工夫し、物的・空間的環境を構成しなければならない。また、幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしなければならない。」と示されている。教師自らも幼児にとって重要な環境の一つであることを念頭に置き、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児一人一人の発達に必要な経験を援助することが大切であると考え。教師の様々な役割に関して、『幼稚園教育要領解説』に示されている視点を表3にまとめた。

表3 教師の役割

①活動の理解者としての役割
②幼児の協同作業者・幼児と共鳴する者としての役割
③憧れを形成するモデルとしての役割
④遊びの援助者としての役割

(2) 教師の言葉かけ

『保育用語辞典』（2021）において、ことばかけとは、「保育者が幼児に対してことばを通して行う援助のあり方の一つである。保育者が幼児にことばをかけることによって、共感や励ましを受け信頼関係が結ばれる、アイデアや知識の提供を受ける、漠然とした思いが明確になる、イメージが豊かにふくらむ、ほかとの関係が広がる等の教育的な作用を及ぼす。」と記されている。教師が幼児に働きかけるとき、言葉かけの援助は重要であり、幼児を身近な環境である人やもの、ことと関係づけるためには教師の言葉かけの工夫が必要であり、重要な役割であると考え。

以上の教師の援助における、教師の役割や言葉かけの捉え、これまでに述べた各領域での教師の役割から、本研究における幼児を身近な「人・もの・こと」へ関係づける、教師の言葉かけ・援助の視点を、図2にまとめた。

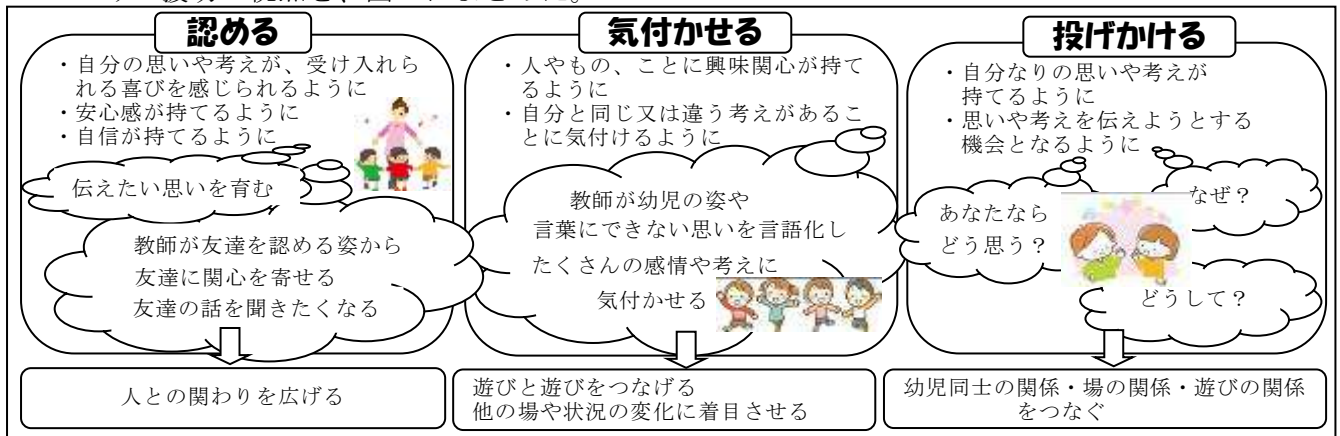


図2 本研究における教師の言葉かけ・援助の視点

VI 指導の実際・仮説の検証

1 検証保育 I

(1) 活動名 「動物園を作ろう」

(2) ねらい ◎イメージを共有し、思いや考えを伝え合いながら、友達と一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう

(3) 活動設定の理由

幼稚園教育要領「人間関係」において、幼児が互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるために、「他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。」と示されている。幼児同士が共に遊びを楽しむ中で共通の目的を持ち、実現に向け互いの思いや考えを伝え合ったり、互いの考えを受け新しいアイデアを生み出したり、自分達で役割等を考えて遊びを進めていく経験を通して、思いや考えを伝え合う楽しさや、自分や友達の良さに気付き、互いの良さが影響し合うことで遊びがより楽しく発展していく喜びを味わえるのではないかと考える。

そこで本学級の幼児が、遠足後から興味を持っている動物作りを遊びに取り入れることで、主体的に遊びに関わりながら自己を発揮し、共通の目的に向かい協同して遊ぶ楽しさを味わうことができるのではないかと考える。また、遊びの場や活動の振り返りの場を通して、工夫したことや友達と力を合わせたこと、活動の中で生じた問題や課題等を皆で共有することにより、互いの良さに気付いたり、互いの思いや考えに気付いたりし、互いを受け入れ認め合おうとする気持ちが育つのではないかと期待し、本活動を設定した。

① 幼児の実態

友達と一緒にイメージを共有し、ごっこ遊びなどを共に進めようとするが、意見の違いから遊びが続かない姿や、思いや考えを伝えることを諦めてしまう姿が見られる。また、製作遊びを通して自分のイメージを表現したり、友達が作っているものに興味を持ち、刺激を受け真似したりして楽しむ姿が見られるが、友達と共に作ったり遊びを進めたりしようとする、自分の思いを伝えたり、相手の意見を受け入れたりして遊ぶことが難しい姿が見られる。

② 教材観

本活動は、人間関係の内容「(6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。」、「(7) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。」、「(8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。」、環境の内容「(8) 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。」を組み合わせて構成している。身近な素材や遊具を使い、友達と考えを出し合ったり、工夫したり協力したりしながら「動物園作り」という共通の目的に向かっていく中で、友達と思いや考えを伝え合い、受け入れ合いながら遊びを進めていくことに楽しさや喜びを味わい、仲間関係が深まるのではないかと考える。

③ 指導観

ア 動物を作る場面では、幼児のイメージを大切にしながら、一人一人のつぶやきや思いを受け止め、その子らしい発想や工夫、表現に共感し、安心して自己を発揮できるようにする。

イ 友達とイメージを共有し、考えを出し合いながら協力して遊びを進めようとする様子を見守り、友達と力を合わせて工夫したり、頑張ったり取り組んだりする姿を認め、活動への意欲につなげる。

ウ 共通の目的の実現に向け、思いや考えを伝え合うことができるよう、個々の言葉の発達を踏まえ、自分の思いを言葉で伝える事に自信が持てない姿などを考慮し、必要に応じて思いを代弁したり、言葉による具体的な表現方法を知らせたりしていく。

エ 意見の違いからトラブルが生じた際には、自分達で解決していこうとする様子を見守りながら必要に応じて周囲に気付かせ、幼児の声をひろいながら共に考え、皆で解決策を探っていく過程を大切にしていく。

オ 活動後の振り返りでは、友達と工夫したり力を合わせたりしたことを認めたり、思いや考えを伝え合うことで新たな工夫や気付きがあったグループの取り組みなどを紹介し自信につなげ、友達と協同して遊ぶ楽しさを感じる場、明日の活動への意欲へとつなぐ場にしていく。

(4) 検証保育計画と実践

	保育活動	ねらい	◇環境構成 ○教師の援助	考 察
1	<p>11月4日(木) 『明日の遠足、楽しみだね♪』</p> <p>○遠足に向けて、話し合う。 ・どんな遠足にしたい？ ・何が楽しみ？ ・気をつける事は？</p> <p>○グループ活動 ・観察したい動物を決める ・調べたいこと、知りたいことを話し合う。 ・グループで使う地図に色を塗る。</p>	<p>◎遠足へ期待を持ち、自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを聞いたりする。</p> <p>◎動物に興味・関心を持つ。</p> 	<p>◇明日の遠足に期待を持ち、安心して自分の思いや考えを伝えられるような雰囲気を作る。</p> <p>○パンフレットや地図を見せながら、動物に興味や関心が持てるよう幼児の声をつないでいく。</p> <p>○グループの友達と思いや考えを伝え合いながら、観察したい動物や調べたいことを決めていけるよう、必要に応じて援助する。</p> <p>○公共施設、路線バスでのルールやマナーについて話し合い、皆が安全で楽しい遠足にするにはどうしたら良いかを考えさせ、意識できるようにする。</p>	<p>・教師が作成した動物園の地図から出会う動物を予想し、調べたい動物を決めていく中で、遠足への期待を高めることができた。</p> <p>・自分の意見を押し付ける幼児がいたことをきっかけに、仲間の合意を得られるような話し方の工夫、ゆずり合いや折り合いをつけていく必要性について、皆で考えることができた。</p> 
2	<p>11月5日(金) 秋の遠足 『動物園に行こう!』</p> <p>○グループのリーダーを中心に動物園を巡る。</p> <p>○グループの仲間と一緒に観察したり、飼育員に質問したりしながら調べたことを、幼児なりにまとめる。</p> 	<p>◎遠足を通して、本物を見たり、触れたりする中で、動物への興味・関心を広げる。</p> <p>◎公共施設でのルールやマナーを意識し、友達と一緒に安全に行動する。</p> 	<p>○幼児の発見や感動に共感しながら、動物への興味や関心を広げていけるよう援助する。</p> <p>○グループの仲間と協力して観察したり、飼育員に質問したりし、調べたいこと、知りたいことを探っていくよう援助する。</p> <p>○幼児のつぶやきや声をひろいながら、動物の特徴に興味や関心を持つことができるよう援助する。</p> <p>○リーダーを中心に、グループの仲間の安全を皆で守ろうとする幼児同士の温かい関わりを認め、周囲に気付かせていく。</p> <p>○帰りのバスで遠足を振り返り、幼児の感想や感動を皆で共有できるようにする。</p>	<p>・動物を観察しながら、驚きや発見、感動したことなど、友達と会話を弾ませていた。</p> <p>・グループの仲間と協力して飼育員に質問したり、園内の掲示物から情報を集めたりしていた。その中で、文字を読む子が読み上げたり、文字を書ける子が調べたことを記入したりと、幼児同士で自然と役割が生まれていた。</p> <p>・それぞれの良さを活かして遠足を楽しむグループの姿が周囲に良い刺激を与えた。</p> 
3	<p>11月8日(月) 『遠足楽しかったね』</p> <p>○遠足の思い出を伝え合う。</p> 	<p>◎自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを聞いたりする。</p> <p>◎思いを伝え合ったり、形にしたりすることで、動物の特徴に興味・関心を持つ。</p> 	<p>◇遠足の写真や、各グループが調べたこと等を掲示し、楽しかったことや心動かされたことを思い出すことができるようにする。</p> <p>◇動物の特徴へ、興味・関心が高まるよう、図鑑等を用意する。</p> <p>◇イメージしたことを、幼児なりに試したり工夫したりして形にしていけることを楽しめるよう、様々な材料を用意し、使いやすいように配置する。</p> <p>○個々のアイディアや工夫を認め、周囲に気付かせる。</p>	<p>・掲示物を見ながら遠足を思い出し、友達と会話を弾ませたり、遠足後に調べた動物の情報を教え合ったりする姿が見られた。</p> <p>・心に残った動物を、思い思いに表現して楽しむ中で、友達の工夫やアイディアに刺激を受け、自分の製作に活かしたり、新たに作ったりする姿が見られた。</p> <p>・図鑑や写真を見ながら、動物の特徴を再現しようと、何度も何度も繰り返し作り直す友達に「頑張れ。」と、応援の声をかける幼児が複数いた。</p>
4	<p>11月9日(火) 『思い出を形にしよう』</p> <p>○印象に残った動物を、絵、空き箱による製作粘土等、思い思いに表現する。</p>	<p>◎自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを聞いたりする。</p> <p>◎動物園作りに興味・関心を持つ。</p> 	<p>◇幼児が作った物を、幼児と一緒に掲示したり並べたりしながら、動物園作りへの意欲を高める。</p> <p>○作りたい動物園について、一人一人の思いを大切に受け止めながら聞くことができるよう援助したり、幼児の言葉をつなぎ、イメージを共有したり、広げたりしながら、動物園作りへ期待が持てるよう援助する。</p>	<p>・仕上がった動物を意図的に配置したことで、「動物園みたい。」と幼児から声があがり、「もっと大きい動物園を作ろう。」という声を引き出すことができた。</p> <p>・「動物園作りに枝が必要。」という声を受け、材料探しのお散歩へ。落ち葉や枝、すすきの特徴から「しっぽに使いそう。」「角みたい。」など、イメージを広げていた。</p>
5	<p>11月11日(木) 『動物園作っちゃおう?』</p> <p>○動物園作りについて話し合う。 ・どんな動物園を作りたい？ ・どうやって作る？ ・何が必要？</p>	<p>◎自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを聞いたりする。</p> <p>◎動物園作りに興味・関心を持つ。</p> 	<p>◇幼児が作った物を、幼児と一緒に掲示したり並べたりしながら、動物園作りへの意欲を高める。</p> <p>○作りたい動物園について、一人一人の思いを大切に受け止めながら聞くことができるよう援助したり、幼児の言葉をつなぎ、イメージを共有したり、広げたりしながら、動物園作りへ期待が持てるよう援助する。</p>	<p>・仕上がった動物を意図的に配置したことで、「動物園みたい。」と幼児から声があがり、「もっと大きい動物園を作ろう。」という声を引き出すことができた。</p> <p>・「動物園作りに枝が必要。」という声を受け、材料探しのお散歩へ。落ち葉や枝、すすきの特徴から「しっぽに使いそう。」「角みたい。」など、イメージを広げていた。</p>

<p>6</p>	<p>11月15日(月) 『動物園を作ろう①』 ○グループの友達と一緒に動物園に必要なものを作る。</p>  	<p>○友達とイメージを共有し、思いや考えを伝え合いながら、遊ぶ楽しさを味わう。</p>  	<p>◇イメージしたことを、幼児なりに試したり工夫したりして形にしていこうと楽しんでいる様子、様々な材料を用意し、使いやすいように配置する。 ◎<u>友達と思いや考えを伝え合い、協力し合いながら作っている姿を認め、周囲に気付かせる。</u> ◎友達と思いや考えを伝え合うことで、遊びがより楽しく発展していく楽しさを味わえるよう援助する。 ◎思いや考えの違いから、トラブルになっている幼児それぞれの思いを受け止め、解決に向けて幼児の声をひろいながら、一緒に考えていく。 ◎遊びの振り返りの中で、各グループの進み具合を皆で共有し、それぞれのアイデアや工夫に気付かせ、刺激を受け合あえるようにする。また、各グループの困り感等も皆で<u>試行錯誤し、解決</u>できるよう援助する。</p>	<p>・「大きい動物を作れるように、仲間を集めよう。」と自分達でグループを決め、友達と相談しながら材料選びを楽しみ、作業を進める姿が見られた。一方で、いざ作ろうとするとイメージはあるが友達に伝えることができず戸惑う姿や、互いの様子を伺う姿が見られ、個々の協同性のある遊びへの取り組み方の実態を把握することができた。 ・振り返りの場で、この日、仲間と力を合わせて動物を完成させたグループに、どうやって完成させたのかを伝える場を設けた。「3人で作り方を決めた。」「Kがはさみ上手だから段ボール切で、Sはセロハンテープ名人だからテープを切って、Iがくっつけたから完成できた。」と、得意や良さを活かして役割を決めたことを堂々と話す3人をしっかりと見つめ、話を聞く幼児の姿から、明日への意欲を感じた。</p>
<p>7</p>	<p>11月16日(火) 『動物園を作ろう②』 ○グループの友達と一緒に動物園に必要なものを作る。</p>	<p>○友達とイメージを共有し、思いや考えを伝え合いながら、遊ぶ楽しさを味わう。</p>	<p>◎遊びの振り返りの中で、各グループの進み具合を皆で共有し、それぞれのアイデアや工夫に気付かせ、刺激を受け合あえるようにする。また、各グループの困り感等も皆で<u>試行錯誤し、解決</u>できるよう援助する。</p>	<p>・幼児同士の言葉によるやりとりが増え、友達とイメージをすり合わせ、少しずつ共に作ることに楽しさを感じている様子が、幼児の言葉や表情、動きから読み取ることができた。</p>
<p>8</p>	<p>11月18日(木) ※動物園を作ろう③を予定変更 『2組動物園で遊ぼう』 ○年少・年中児を招き、自分達で作っている動物で遊ぶ。</p>	<p>※年少・年中児の遠足中止を受け、急遽「2組動物園で遊ぼう」を実施。 ・残念がる年少・年中児のために何か役に立てないかと投げかけた。「動物で遊ばせる?」「動物園ごっこがいいんじゃない?」などと、年少・年中児を思い、自分達にできることを考え、自分達で作った動物で遊ばせながら「これはきりんだよ。乗ってみる?」と乗り方を教えたり、きりんにまたげるよう椅子を用意したりする温かい関わりが見られた。一方で、素っ気ない態度で年少児を困らせてしまう姿もあり、振り返りの場において、どのような関わりが望ましかったかを、幼児の声をひろいながら皆で考えることができた。</p>	<p>・幼児同士の言葉によるやりとりが増え、友達とイメージをすり合わせ、少しずつ共に作ることに楽しさを感じている様子が、幼児の言葉や表情、動きから読み取ることができた。</p>	
<p>9</p>	<p>本時 11月19日(金) 『動物園を作ろう③』</p>	<p>省略 指導案へ記載</p>	<p>省略 指導案へ記載</p>	<p>省略 仮説の検証・成果と課題へ記載</p>
<p>10 11</p>	<p>11月22日(月) 『動物園を作ろう④』 ○グループの友達と一緒に動物園に必要なものを作る。 11月25日(木) 『動物園を作ろう⑤』 ○動物園オープンに向けて話し合う。</p>	<p>○イメージを共有し、思いや考えを伝え合いながら、友達と一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。</p>	<p>◇友達と動物園オープンに向けてイメージを共有し、配置や動線等、グループ同士で話し合いながら決めていけるよう、必要に応じて援助する。</p> 	<p>・動物を配置する場所を決める際、皆が納得する決め方について、たくさんの意見が飛び交い、皆でより良い決め方を探ることができた。 ・オープンに向け、看板やチケットなど、新たに必要ものを話し合い、準備を楽しんでいた。</p>
<p>12</p>	<p>11月30日(火) 『動物園で遊ぼう』 ○友達と協力し合いながら、動物園ごっこを楽しむ。</p> 	<p>・友達と思いや考えを伝え合いながら動物園ごっこを楽しみ、達成感や満足感を味わう。</p> 	<p>◎<u>友達と共通の目的に向かい思いや考えを伝え合いながら遊びを進める楽しさや、自分のよさを発揮しながら遊びを進める楽しさを味わえるよう、個に応じた言葉かけや援助を工夫する。</u> ◎自分達で決めた役割に責任を持ち、一生懸命取り組む姿を認め、周囲に気付かせながら、役割を果たす楽しさや喜びを味わうことができるよう援助する。 ◎これまでの取り組みを幼児と一緒に振り返り、自信が持てるような言葉かけを工夫し、<u>自分や友達の成長を喜んだり、満足感や充実感を味わったり</u>することができるようにする。</p>	<p>・オープンに向けて自分達で決めた遊び方や役割を、友達と再度確認しながら準備を進める姿から、遊びへの期待や意欲を感じるすることができた。 ・協力し合いながら準備を進める中、意見の違いからトラブルになる幼児がいた。グループの仲間からの「喧嘩しないよ。」という言葉を受け、気持ちを調整しようとする姿に、集団の一員としての自覚を持つ姿や、集団遊びへの取り組み方の変化を感じ、グループで成長を喜び合えた。 ・飼育員や店員、お客さんと、役になりきって遊びを楽しむ中で、幼児同士でたくさんの言葉のやりとりをしながら、遊びを進展させていた。</p>

(5) 本時の展開

指導案（本時の展開）			
令和3年11月19日（金） うるま市立伊波幼稚園 2組 24名（男児13名 女児11名） 保育者 松川ちどり			
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・遠足を思い出し、観察した動物や、自分達で調べてわかったことなどについて、友達と会話を弾ませている。 ・心に残った動物を、粘土や空き箱などの廃材を使い、思い思いに作ることを楽しんでいる。 ・友達が廃材などの特徴を活かし、工夫して作る姿に刺激を受け、真似しようとする姿が見られる。 ・完成させた動物を持ち寄り「動物園みたいだね」と、イメージが広がってきている。 		
ねらい	◎イメージを共有し、思いや考えを伝え合いながら、友達と一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。		
活動仮説	<ul style="list-style-type: none"> ・動物園作りという共通の目的を持った遊びの場において、製作意欲を高める掲示環境や様々な素材が活用できる環境構成を工夫することで、友達とイメージを広げ、共に遊びを進めていく楽しさを味わうことができるであろう。 ・幼児一人一人の思いや考えを受け止め、認める言葉かけを工夫することで、自分の思いや考えに自信を持ち、伝えようとしたり、友達の思いや考えにも興味を持って聞こうとしたりすることができるであろう。 		
時間	○予想される幼児の活動	◇環境構成 ◎教師の援助	評価項目
9:30	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の話聞く。 ・前日までの流れを振り返る。 ・本時の各グループの活動内容を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に動物園作りを楽しむ。 ・友達と考えを出し合う。 ・友達と一緒に工夫したり、協力したりして動物を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・意見の違いから遊びが中断してしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇動物園作りのイメージを広げられるよう、遠足に使用した地図や、遠足の写真、自分達で調べた動物の特徴を書いたメモ、図鑑などの掲示を工夫する。 ◇イメージしたことを、幼児なりに試したり工夫したりして形にしていくことを楽しめるよう、様々な材料を用意し、使いやすいように配置する。 ◎前日までの流れを振り返り、本時の活動に期待が持てるようにする。 ◎友達と協力して遊びの準備を進める姿を認め、活動への意欲につなげていく。 ◇来客に緊張や不安を感じている姿には、寄り添いながら安心して遊びに取り組めるような雰囲気を作る。 ◎個々の発想や工夫、表現に共感し、認める言葉かけ、自分の思いや考えに自信を持って相手に伝えようとしたり、相手の思いや考えにも興味を持てるようにする。 ◎友達と考えを出し合ったり、工夫したりして協力し合いながら作っている姿を認め、周囲に気付かせていく。 ◎自分の思いや考えを伝えることに自信が持てない子には、必要に応じて寄り添いながら思いを代弁したり、具体的な表現方法を知らせたりしていく。 ◎個別に配慮が必要な子には、思いを受け止め、一緒に作ったりしながら、その子なりのペースで活動を進め、楽しむことができるようにする。 ◇遊具の使い方や場の使い方など危険な場面を捉え、幼児なりに互いの動きを把握しながら、安全な遊具の使い方、場の使い方を意識できるよう一緒に考え、整えていく。 ◎意見の違いからトラブルが生じた際には、自分達で解決していこうとする姿を見守りながら、必要に応じて援助する。 ◇友達と協力しながら片付ける姿を認め、皆で生活する場を整える気持ちよさ、次の活動に向けて遊具を整える気持ちよさを味わえるような声をかける。 ◎幼児の発表から、活動内でのトラブルや困り感について全体で共有し、皆で解決策を探っていく過程を大切に ◎友達と考えを出し合い、工夫したり力を合わせたりしたことを認めながら自信につなげ、友達と一緒に活動する楽しさを味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ✿興味や関心を持って、教師の話聞いているか。 ✿喜んで活動に参加しているか。 ✿友達と考えを出し合ったり、工夫したり、協力して遊びを進めているか。
10:30	<ul style="list-style-type: none"> ○片付けをする。 ・次回も気持ちよく活動に取り組めるよう、協力して片づける。 ○活動の振り返り ・教師の話聞く。 ・思いや考えを伝え合う。 ・友達の話を聞く。 ・次回の活動に期待を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎友達と考えを出し合い、工夫したり力を合わせたりしたことを認めながら自信につなげ、友達と一緒に活動する楽しさを味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ✿次の活動に期待が持てたか。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを伝えたり、友達の話を聞いたりして、友達と一緒に遊びを進めていくことを楽しむことができたか。 		

2 仮説の検証

幼児の言動、表情、幼児同士の会話や関わり、ビデオ記録、園の職員との保育反省より検証する。

(1) 具体仮説1の検証

具体仮説1

遊びの中で、幼児の興味・関心を捉え、①主体的に関わりたくなるような環境構成、②協同性のある遊びの展開を工夫することで、友達との関わり合いや、言葉による伝え合いへの意欲が高まるであろう。

本時における具体仮説1の検証内容を具体的に示すと次のようになる。

場・内容	遊びの中で
手立て	①幼児の興味・関心を捉えた、主体的に関わりたくなるような環境構成 ⇒ 製作意欲を高める環境構成として掲示の工夫 様々な素材が活用できる環境構成として教材・材料の選定、配置の工夫 ②幼児の興味・関心を捉えた協同性のある遊びの展開の工夫 ⇒ 動物園作りという共通の目的を持った遊び
目指す幼児の変容	友達との関わり合いや、言葉による伝え合いへの意欲が高まるであろう

① 幼児の興味・関心を捉えた主体的に関わりたくなるような環境構成

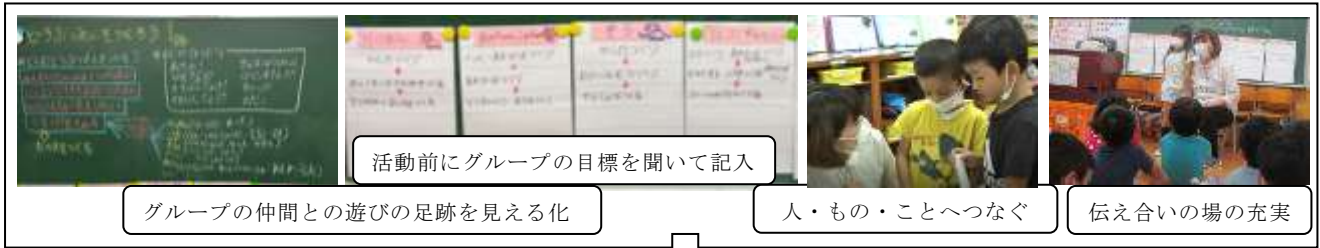
				
遠足前にグループの皆で色塗りの地図		グループで力を合わせて遠足や図鑑で調べた動物の特徴をまとめたメモ		
				
遠足の写真	思い思いに描いたり作ったりした動物たち		廃材や材料探しのお散歩で見つけた自然物	

				
あれ？まがっちゃう	もっと羽を大きくしよう	これ使ってみたら？	すずらんテープ長いからきりんの首にびったりだ	すすきをたてがみにしよう

<学級全体の考察>

- 動物園作りのイメージを広げられるような掲示の工夫や、幼児と一緒に教材・材料を選定したり、幼児と一緒にコーナーを設置したりするなど配置を工夫したことで「動物園を作りたい。」という声を引き出すことができ、動物園作りへの意欲や期待につながった。また幼児自ら「もっと大きい動物を作りたいから仲間を集めよう。」とグループ決めに提案するなど、友達と力を合わせたくなるきっかけとなった。
- 自分達で調べた動物の特徴をまとめたメモや動物図鑑を見ながら気付いたことや発見したことを教え合ったり会話を弾ませたりするなど、幼児同士の関わり合いや言葉によるやりとりが増えた。また、動物の特徴への興味や関心が更に高まり、製作時のアイデアやイメージにつながった。
- 「枝をきりんの角にしたい」と、幼児から出た言葉をきっかけに材料探しの散歩へ行き、集めた秋の自然物や、持ち寄った廃材などの様々な材料を用意したことで、材料の特徴から気付いたことやイメージしたことを伝えようと、幼児同士の言葉によるやりとりにつながった。また、材料の特徴からイメージしたことを再現したいとの思いから、試したり工夫したりして作ることを楽しむ姿が増えた。

②幼児の興味・関心を捉えた協同性のある遊びの展開の工夫



グループの仲間との遊びの足跡が見える化

活動前にグループの目標を聞いて記入

人・もの・ことへつなぐ

伝え合いの場の充実



みんなでこうもりの遊び場作るぞ～！

おしりに色塗りたいな

尻尾を持ち上げてあげるね

テープ貼りやすいように掴んであげるね

頑丈にするね

見て～ハブが天井に届いた

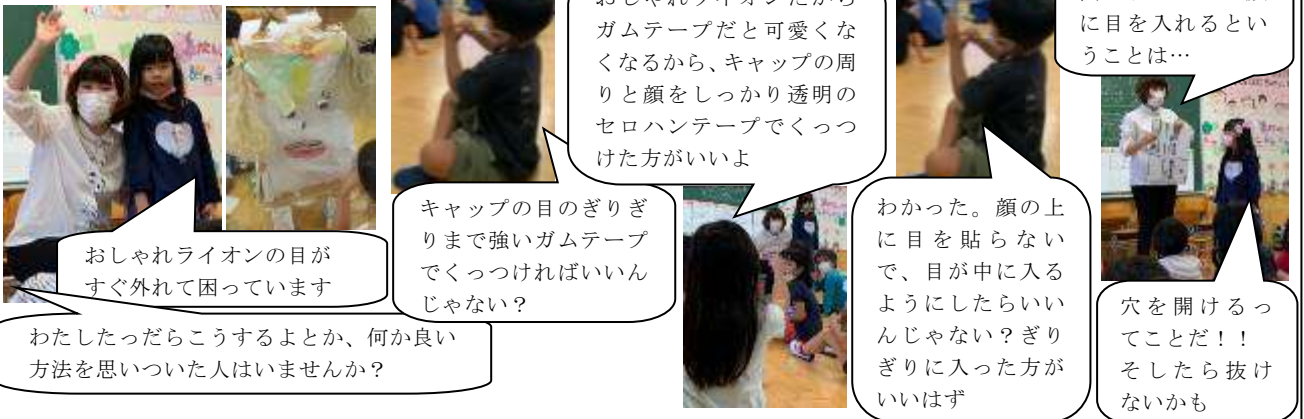
目をかくね

何mかな？

<学級全体の考察>

- ・毎時、活動前にグループの目標を聞いて記入し、見える化したことで目的意識を持ち、幼児同士の会話による関わり合いが増え、イメージを共有したり役割を分担したりして、友達と一緒に協力して遊びを進めようとする姿が増えた。
- ・友達との動物作りを楽しむ中で、自分なりの目標を達成させた際や、新たな発見があった際など、「見て見て。」と友達に声をかけたり見せたりして、思いを共有しようとする姿が増えた。
- ・動物作りへのイメージが広がり、実現させたいという思いから意見の違いでトラブルになることも度々あった。その都度、それぞれの思いを伝え合わせ、互いの感情や思いに気付かせ、互いの思いを大事にできる方法を共に探れるよう援助した。時にはグループの仲間や活動後の振り返りの場において全体でトラブルを共有したことで、少しずつ相手の思いを大切にしようしたり、皆で考えを出し合い解決していこうとしたりする姿が見られるようになった。

<本時の振り返りより>



おしゃれライオンが目がすぐ外れて困っています

わたしたっだらこうするよとか、何か良い方法を思いついた人はいませんか？

キャップの目のぎりぎりまで強いガムテープでくっつけばいいんじゃない？

おしゃれライオンだからガムテープだと可愛くなくなるから、キャップの周り顔としっかり透明のセロハンテープでくっつけた方がいいよ

わかった。顔の上に目を貼らないで、目の中に入るようにしたらいいんじゃない？ぎりぎりに入った方がいいはず

固い段ボールの顔に目を入れるという事は…

穴を開けるってことだ！！そしたら抜けないかも

<学級全体の考察>

- ・皆に聞いたら良い方法が見つかるかもしれないと、仲間を信頼して困り感を伝えた幼児の思いを受け止め、困っている友達の役に立ちたいと自分なりに思いついた方法を伝える二人の仲間を思う温かい気持ちが学級全体に伝わり、どの子もしっかりと耳を傾け聞いていた。
- ・友達の困り感を自分事のように考え「おしゃれライオンだから。」と発言した女兒。おしゃれなライオンを作ることを目指してきたライオングループのこれまでの工夫や頑張りを見てきたからこそ、そのこだわりを大切にしたいという思いの溢れた発言に、ライオングループの子ども達は嬉しそうに女兒を見つめていた。
- ・友達からのアドバイスを受け「穴を開けるってことだ。」と相談した子が気付いて発言するのと同時に、学級のほとんどの子が「穴を開けるんだ。」と発言したことから、学級全体で困り感を共有し、相談児のため解決の方法を探れたのではないかと捉えられる。

以上のことから、本時の①、②の手立ての工夫は概ね有効であったと考える。

抽出児3名に視点をあてた言動観察、考察についてはP17、P18に記載しています。

3 検証保育Ⅱ

(1) 活動名 「お楽しみパーティをしよう」

(2) ねらい ◎共通の目的に向かい、友達と思いや考えを伝え合いながら協力して取り組むことを楽しみ、充実感や達成感を味わう。

(3) 活動設定の理由

幼稚園教育要領「人間関係」において、「幼児は友達と共に遊ぶ楽しさを経験するうちに、友達と一緒に物事をやり遂げたいという気持ちが強まっていく。」とあり、「集団の中で一人一人のよさが発揮され影響し合って、一人ではできないことも力を合わせれば可能になるという気持ちが育つようにすることが大切である。」と示されている。幼児同士が共通の目的に向かい試行錯誤していく過程の中で、自分とは違う思いや考えに触れ、ときには自己主張がぶつかり合い、折り合いを付けることを繰り返しながら工夫したり協力したりする楽しさや充実感を味わうようになり、互いのよさを認め合うことに喜びを味わえるのではないかと考える。

そこで本学級の幼児がこれまでの経験を活かし「自分達で誕生会を進めたい」と共通の目的を持たせることで主体的に取り組みながら自己を発揮し、協同して活動に取り組む楽しさや充実感を味わうことができるのではないかと考え、幼児と共に取り組みを進めていた。しかし、県内の新型コロナウイルス感染拡大による登園自粛要請に伴う学級の幼児の大幅な減少により、誕生会実施が難しくなったことを受け、幼児と話し合い「誕生会のお楽しみ(出し物)でやりたかったことを見せ合いっこしてパーティがしたい」という幼児の声から「お楽しみパーティ」に向けての取り組みへと変更した。

厳しい状況の中でも仲間と共に楽しい生活を創り出そうとする幼児同士の思いが重なった今、共通の目的に向かい互いの感じ方や考え方に関心を寄せ、それらが行き交うことを通して互いに認め合い、よさを発揮し合う関係性を築くことができるのではないかと考える。

① 幼児の実態

友達との関わりが盛んになり、園生活の様々な場面で幼児同士が共に活動を進めようとする姿が増え、互いの思いや考えを伝えようとする姿も増えてきた。また、運動会という大きな行事を経験したことで、仲間と力を合わせることへの意欲の高まりが見られる。

② 教材観

本活動は、人間関係の内容「(4)いろいろな遊びを楽しみながら、物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。」、「(6)自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。」、「(7)友達のよさに気付く、一緒に活動する楽しさを味わう。」、「(8)友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。」、環境の内容「(8)身近な物や遊具に興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。」を組み合わせて構成している。共通の目的の実現に向け友達と考えを出し合い、工夫したり協力したりしながら準備を進めていく中で、互いのよさを発揮し認め合いながら活動を進めていくことを楽しみ、仲間関係が深まるのではないかと考える。

③ 指導観

ア 活動に向けての話し合いでは一人一人のつぶやきや思い、その子らしい発想や表現に共感し、幼児のこれまでの園生活の経験から生じるイメージを大切にしながら、共通の目的に向かって友達と共に取り組んでいくことに期待や意欲が持てるようにする。

イ 友達と目的に向かってイメージを共有し、考えを出し合いながら進めようとする中で、一人一人が安心して自己を発揮できるような雰囲気や幼い仲間と共に作る。また、友達と力を合わせて工夫して取り組む姿を認め、互いのよさが発揮できるような関係作りを援助したり、充実感や達成感を味わうことができるような言葉をかけていく。

ウ 共通の目的の実現に向け思いや考えを伝え合うことができるよう、個々の言葉の発達を踏まえ必要に応じて思いを代弁したり、具体的な表現方法を知らせたりしていく。

エ 意見の違いからトラブルが生じた際には、自分達で解決していこうとする姿を見守りながら必要に応じて周囲に気付かせ、幼児の声をひろいながら共に考え、皆で解決策を探っていく過程を大切にしていく。

オ 活動後の振り返りでは、幼児一人一人の思いや考え、気付きを全体で共有し、仲間とのつながりを感じられる場、明日の活動への意欲へとつなぐ場にしていく。

(4) 検証保育計画と実践

	保育活動	ねらい	◇環境構成 ○教師の援助	考 察
1	1月6日(木) 『誕生会について』 ○誕生会について話し合う。 ・新型コロナウイルス感染症増加の状況から誕生会の持ち方について。 ・前回の誕生会を振り返り、今回につなげていくかについて。	◎誕生会について、自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを聞いたりする。 ◎誕生会に興味・関心を持つ。	◇誕生会について、安心して自分の思いや考えを伝えられるような雰囲気を作る。 ◎友達の思いや考えに興味を持ち、話を聞くことができるよう、教師が幼児一人一人の思いや考えを認めたり、幼児の声を全体に投げかけたりする。 ◎新型コロナウイルスの感染増加について幼児が理解できるように、新聞を見せたり感染者数を黒板に書いたりしながら具体的に伝え、幼児なりに予防対策を意識した誕生会にする。 ◎前回の誕生会を皆で振り返り、今回に活かすことができるよう幼児の声を拾いながらつなげていく。	・これまでの誕生会を振り返り、自分の思いや考えを伝え、合意のある姿から誕生会への期待を感じた。 ・場所や人数、友達との距離など、対策を意図して一生懸命考えた。健康を守るように感じた。 ・誕生会でもやりたい事(お楽しみ)について幼児同士で話を弾ませる姿を全体に付けさせ、明日の活動につなげることができた。
2	1月7日(金) 『プログラムや役割を決めよう』 ○プログラムや役割について話し合う。 ・プログラムについて。 ・役割について。 ・今後の進め方について。	◎誕生会に期待を寄せ、自分の思いや考えを友達に伝えたりする。	◇誕生会に期待を寄せ、安心して自分の思いや考えを伝えられるような雰囲気を作る。 ◎幼児同士が一人一人の思いや考えを大事に受け止めながら聞くことができるよう援助したり、幼児の声をつないだりしながら、誕生会へていくことに意欲が持てるようになる。 ◎役割の決め方など、幼児が自分達で進めていけるよう、必要に応じて援助していく。トラブルや困り感が生じた際には皆で共有し、解決策を共に考えることができるようにする。	・「司会をやりたい。」と多くの子が希望したため、どう決めるのかを投げかけた。「じゃんけん決めてよう。」という子の提案に皆が納得し、じゃんけん決めてようとするが「負けた人がかわなくてやろう。」との声から皆で話し合い、方針を変更した。 ・希望が重なり「一緒にやるう。」と二人組で司会をする流れに決まる中「俺は一人でやるかやってみよう」というT.の思いを受け入れた。Yの優しさを皆で認め合った。
3	1月11日(火) ※登園10名 『今後について』 ○登園自粛要請による半数以上の幼児の自粛を受け、今後の取り組みについて。 ・誕生会について。	◎自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを聞いたりする。	◎新型コロナウイルス感染拡大による登園自粛要請について幼児が理解できるように伝え、本時から予定していた誕生会への取り組みについて、自分の思いや考えを伝えたり友達の話に興味や関心を持って聞いたりすることができるような雰囲気を作り、幼児と共に作る。 ◎幼児の温かい思いを大切に受け止め、皆で共有できるようにする。 ◎このような状況の中でも予防対策を意識しながら、仲間と共に楽しい日々を創り出そうとする幼児の思いを受け止め意欲を高める。	・今後の取り組みについて投げかけた。「主役(誕生児)がいなくて誕生会の意味がない。」「みんなが来たら誕生会しよう。みんなも一緒に祝いしたいと思う。」など、休んでいる仲間の心情を思う言葉があった。 ・誕生会が延期でもお楽しみ(誕生会で披露を予定していた出し物)は見せ合いたい。「こしたい。」という声から、登園している皆で楽しいことをやろうと、「お楽しみパーティー」の開催が決定した。
※新型コロナウイルス感染拡大に伴い市より登園自粛要請が発令され、学級の半数以上が自粛により欠席となった。登園している幼児と話し合い、誕生会に向けての取り組みから「お楽しみパーティー」への取り組みへ変更した。				
4	1月12日(水) 『プログラムや役割を決めよう』 ○プログラムや役割について話し合う。 ・プログラムについて。 ・役割について。 ・今後の進め方について。	◎お楽しみパーティーに期待を寄せ、自分の思いや考えを友達に伝えたりする。	◇お楽しみパーティーに期待を寄せ、安心して自分の思いや考えを伝えられるような雰囲気を作る。 ◎幼児同士が一人一人の思いや考えを大事に受け止めながら聞くことができるよう援助したり、幼児の声をつないだりしながら会へのイメージを広げ、友達と一緒に進めていくことに意欲が持てるようになる。 ◎役割の決め方など幼児が自分達で進めていけるよう、必要に応じて援助していく。トラブルや困り感が生じた際には皆で共有し、解決策を共に考えることができるようにする。	・プログラム作成や飾りつけを「自分達でやりたい。」と、友達同士誘い合い係を決める姿から、パーティーへの意欲や楽しいという幼児の思いを感じるようになった。 ・やりたい思いはあるが、思いを伝えられず戸惑う子に困り感を尋ねると「飾りつけやりたいけど作れるか心配。」と思いを伝えた。それを聞いた周大が「みんなで作るから大丈夫。教えるよ。」と、その子が安心してできるよう温かい言葉を優しく感じ、皆でその思いを認め合った。

5	<p>1月13日(木) 『お楽しみパーティへの取り組み①』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に、お楽しみパーティに必要な物を考えたり、作ったりする。 ○役割について相談しながら、協力して取り組む。 	<p>○共通の目的に向かい、友達と思いや考えを伝え合いながら協力して取り組む。</p>	<p>◎会に向けて、友達と思いや考えを伝え合いながら協力して準備を進めていくことを楽しみ、会に期待が持てるような雰囲気を幼児と共に作る。</p> <p>◎友達とイメージが広がったり、より良いものに発展したりしていく楽しさや友達のよさに気付くことができるような言葉かけを工夫する。</p> <p>◎個々のアイデアや工夫、役割に向かう姿を認め、周囲に気付かせる。</p> <p>◇友達とイメージしたことを、幼児なりに試したり工夫したりして楽しくしていくことを楽しめるよう、様々な材料を用意し、使いやすいように配置する。</p> <p>◎活動後に振り返りの場を設け、一人一人の気付きや思いを皆で共有し、明日へとつなげていく。</p>	<p>・今更さるに興味を持ち楽しんでいけるよう、お楽しみパーティの準備を進めようとする姿が見られる。</p> <p>・思いや考え伝え合いながら生活や遊びを楽しむ姿が増えている。</p> <p>・運動会という大きな行事の経験から、友達と力を合わせて取り組むことへの意欲が高まっている。</p>
6	<p>1月14日(金) 『お楽しみパーティへの取り組み②』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に、お楽しみパーティに必要な物を考えたり、作ったりする。 ○役割について相談しながら、協力して取り組む。 	<p>○共通の目的に向かい、友達と思いや考えを伝え合いながら協力して取り組む。</p>	<p>◎会に向けて、友達と思いや考えを伝え合いながら協力して準備を進めていくことを楽しみ、会に期待が持てるような雰囲気を幼児と共に作る。</p> <p>◎友達とイメージが広がったり、より良いものに発展したりしていく楽しさや友達のよさに気付くことができるような言葉かけを工夫する。</p> <p>◎個々のアイデアや工夫、役割に向かう姿を認め、周囲に気付かせる。</p> <p>◇友達とイメージしたことを、幼児なりに試したり工夫したりして楽しくしていくことを楽しめるよう、様々な材料を用意し、使いやすいように配置する。</p> <p>◎活動後に振り返りの場を設け、一人一人の気付きや思いを皆で共有し、明日へとつなげていく。</p>	<p>・今更さるに興味を持ち楽しんでいけるよう、お楽しみパーティの準備を進めようとする姿が見られる。</p> <p>・思いや考え伝え合いながら生活や遊びを楽しむ姿が増えている。</p> <p>・運動会という大きな行事の経験から、友達と力を合わせて取り組むことへの意欲が高まっている。</p>
7	<p>1月17日(月) 『お楽しみパーティへの取り組み③』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に、お楽しみパーティに必要な物を考えたり、作ったりする。 ○役割について相談しながら、協力して取り組む。 	<p>○共通の目的に向かい、友達と思いや考えを伝え合いながら協力して取り組む。</p>	<p>◎会に向けて、友達と思いや考えを伝え合いながら協力して準備を進めていくことを楽しみ、会に期待が持てるような雰囲気を幼児と共に作る。</p> <p>◎友達とイメージが広がったり、より良いものに発展したりしていく楽しさや友達のよさに気付くことができるような言葉かけを工夫する。</p> <p>◎個々のアイデアや工夫、役割に向かう姿を認め、周囲に気付かせる。</p> <p>◇友達とイメージしたことを、幼児なりに試したり工夫したりして楽しくしていくことを楽しめるよう、様々な材料を用意し、使いやすいように配置する。</p> <p>◎活動後に振り返りの場を設け、一人一人の気付きや思いを皆で共有し、明日へとつなげていく。</p>	<p>・今更さるに興味を持ち楽しんでいけるよう、お楽しみパーティの準備を進めようとする姿が見られる。</p> <p>・思いや考え伝え合いながら生活や遊びを楽しむ姿が増えている。</p> <p>・運動会という大きな行事の経験から、友達と力を合わせて取り組むことへの意欲が高まっている。</p>
8	<p>本時 1月18日(火) 『お楽しみパーティ』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に、協力し合いながら会を進めることを楽しむ。 	<p>○共通の目的に向かい、友達と思いや考えを伝え合いながら協力して取り組むことを楽しみ、充実感や達成感を味わう。</p>	<p>省略 指導案へ記載</p>	<p>・今更さるに興味を持ち楽しんでいけるよう、お楽しみパーティの準備を進めようとする姿が見られる。</p> <p>・思いや考え伝え合いながら生活や遊びを楽しむ姿が増えている。</p> <p>・運動会という大きな行事の経験から、友達と力を合わせて取り組むことへの意欲が高まっている。</p>

(5) 本時の展開

指導案（本時の展開）			
令和4年1月18日(火) うるま市立伊波幼稚園 2組 10名 (男児5名 女児5名) 保育者 松川ちどり			
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わりが盛んになり、様々な場面で友達と共に活動を進めようとする姿が見られる。 ・思いや考え伝え合いながら生活や遊びを楽しむ姿が増えている。 ・運動会という大きな行事の経験から、友達と力を合わせて取り組むことへの意欲が高まっている。 		
ねらい	◎共通の目的に向かい、友達と思いや考えを伝え合いながら協力して取り組むことを楽しみ、充実感や達成感を味わう。		
活動仮説	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の目的に向かう中で、互いの思いや考えを伝え合い受け入れ合いながら試行錯誤することで、より良い考えが生まれたり、活動がより楽しく発展したりする楽しさを味わえるよう援助することで、互いに認め合うことに喜びを見いだせるであろう。 ・幼児同士の協同性のある関わり合いを学級全体で認め合い、喜び合えるような言葉かけを工夫することで、互いのよさを発揮し合うことを楽しめるであろう。 		
時間	○予想される幼児の活動	◇環境構成 ◎教師の援助	評価項目
	○パーティの準備をする ・飾りつけをする	◇友達と一緒に思いや考えを出し合い、協力して作成した飾りやプログラムを黒板に貼り付け準備を進める幼	

<p>9:30</p> <p>○教師の話聞く。 ・前日までの流れを振り返る。 ・本時に期待を持つ。</p> <p>○友達と一緒に楽しみパーティを進めることを楽しむ。 ・友達と協力して役割に取り組む。 ・友達と一緒に工夫したり、協力したりして会を進める。 ・友達と一緒に楽しみを披露する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ・司会をする ～楽しみ披露～ 人形劇 あやとり だるまおとし こままわし けんだま 紙コップタワー </div> <p>10:30</p> <p>○活動の振り返り ・思いや考えを伝える。 ・友達の話を聞く。 ・教師の話聞く ・今後の活動に期待を持つ。</p> <p>10:45</p>	<p>児の姿を認め、活動への期待や意欲につなげていく。 ◇前日までの取り組みを振り返り、共通の目的に向かい取り組んできた姿を認め、一人一人が安心して自己を発揮したり、役割を果たしたりすることに意欲を持つことができるような温かい雰囲気を作る。 ◎友達と協力して活動を進めようとする姿を認め、自分の役割を果たす喜びや達成感を味わえるような言葉をかける。 ◎人形劇、あやとり、だるまおとし、けんだま、こままわし、紙コップタワー作りと、自分達で決めた楽しみ(出し物)に向かい、友達と工夫して取り組んできたことや、技やコツを教え合いながら練習を重ねてきたことに自信を持ち、一人一人がのびのびと披露できるような雰囲気を幼児と共に作る。 ◎友達が披露する姿から感じたことをつぶやいたり、思いを伝えたりする幼児の声をひろい、一人一人の工夫や表現を皆で認め自信につなげ、互いの成長を喜び合えるようにする。 ◇けんだまやこままわしでは、幼児なりに安全を意識し工夫して披露する姿を認めたり、危険な場面が生じた際には、より安全な場の使い方や披露の仕方を共に考えたり整えていく。 ◎個別に配慮が必要な子には、周囲の状況を見ながら自分なりに考えて行動する姿を認め、仲間と共に活動する楽しさを感じることができるよう援助し、自信につなげていく。 ◎トラブルが生じた際には、自分達で解決していこうとする姿を見守りながら、必要に応じて援助する。 ◎活動を皆で振り返り、安心して自分の思いや考えを伝えることができるような雰囲気を幼児と共に作る。 ◎幼児の思いや考え、気付きを皆で共有し、これまでの取り組みや本時の取り組みでの一人一人の頑張りを認め、幼児が達成感を味わい、仲間と共に進めてきたことを喜び合えるような言葉かけを工夫する。 ◎仲間とのつながりを感じながら、今後の園生活も友達と一緒に協力しながらより良いものにしていこうという気持ちを持つことができるような言葉をかける。</p>	<p>✿興味や関心を持って、教師の話聞いているか。</p> <p>✿喜んで活動に参加しているか。</p> <p>✿友達と思いや考えを伝え合いながら、工夫したり、協力したりして会を進めているか。</p> <p>✿友達と力を合わせて取り組んだことに、喜びや達成感を感じているか。</p>
<p>評価</p>	<p>・友達と思いや考えを伝え合い、協力しながら会を進めていくことを楽しむことができたか。</p>	

4 仮説の検証

幼児の言動、表情、幼児同士の会話や関わり、ビデオ記録、園の職員との保育反省より検証する。

(1) 具体仮説2の検証

具体仮説2

友達と思いや考えを伝え合う場で、①友達と喜びを共有し合う嬉しさや、②共に試行錯誤しながら問題・課題への解決策を探る喜びを味わえるような教師の言葉かけや援助を工夫することで、互いに認め合える温かい仲間関係を築くことができるであろう。

本時や本時までの取り組みにおける具体仮説2の検証内容を具体的に示すと次のようになる。

<p>場・内容</p> <p>手立て</p>	<p>友達と思いや考えを伝え合う場で</p> <p>①友達と喜びを共有し合う嬉しさを味わえるような教師の言葉かけの工夫 ⇒ 幼児同士の協同して活動を進める姿を認め合う言葉かけの工夫</p> <p>②共に試行錯誤しながら問題・課題への解決策を探る喜びを味わえるような教師の言葉かけや援助の工夫 ⇒ 思いや考えを伝え合い受け入れ合いながら試行錯誤する楽しさを味わえるような援助の工夫</p>
<p>目指す幼児の変容</p>	<p>互いに認め合える温かい仲間関係を築くことができるであろう</p>

①友達と喜びを共有し合う嬉しさを味わえるような教師の言葉かけや援助の工夫

～あやとり披露に向けて取り組む幼児の姿から～







あやとりを教え合う

本時に備えて練習を重ね、披露する順番を相談し合う

仲間の成功を喜び合う

- ・あやとりが得意な女児二人の姿に憧れ、あやとりに取り組む子が増えた。遊びの振り返りの際に「初めてあやとりでほうきができて嬉しかった。」と発表した子に、粘り強く取り組んだ努力や成長を認める言葉をかけると「AとBができるようになるまでずっと優しく教えてくれたからできた。」と、温かく寄り添い続け教えてくれた二人への感謝の思いを言葉にした。「できるようになりたい。」という仲間の思いを大切にできた二人の温かい関わりと、それに感謝できる発表児の思いを皆で認め合えるよう「友達のがんばりたい気持ちを大切に手伝ってくれる仲間・助けてくれる仲間がいることが嬉しいね。」と、仲間とのつながりに喜びを味わえるよう幼児の声をつないだ。
- ・本番を想定し自分達で練習する中で「何も言わずに始めたら何を作ろうとしているかわからない。最初に〇〇をやりますって言う?」、「指の使い方も説明しよう。」など、5人で相談しながら練習を進める姿を他児に気付かせたり、より良い形で披露するために思いや考えを伝え合い、仲間と力を合わせて練習を進める姿を認めたりして、協同して活動を進める楽しさや喜びを味わえるようにした。
- ・本時では、前日に休んでいた男児が緊張から思うように指が動かず焦る状況を仲間の4人が支え、男児が落ち着けるよう声をかけたり成功するまで温かく見守ったりと、仲間の成功を願う姿や全員の成功を仲間同士で喜び合う姿が見られた。



思いを込めて紐を巻く二人

～こままわし披露に向けて取り組む幼児の姿から～

- ・「パーティでこままわしを披露したい、本番は一発で成功させたい。」と、自分なりの目標に向かい繰り返し練習する中で、自分と同じように努力を重ねる友達の姿から「友達も一緒に成功させたい。」という目標に変わり、こつを教え合い「大丈夫できるよ、頑張れ。」など互いの頑張りを認め合い励まし合う姿が増えていった。本番前日には「一緒に一発で成功させよう。」と共通の目標に変わり、パーティではこれまでの成果を発揮しようと思いを込めて披露した。成功を喜び合う二人の協同して遊びを楽しむ姿を認め、それぞれの自信につながった。

〈学級全体の考察〉

- ・パーティに向けての取り組みの中で、互いを思い合い助け合い励まし合い支え合う姿、共に力を合わせる姿を捉え、幼児の気持ちを皆で共有したり大切にしたりできるような言葉かけを工夫してきたことで、仲間とのつながりに喜びを感じ、より協同して活動を楽しみ、パーティでは仲間と共に達成感や充実感を味わうことができたことと捉える。

②共に試行錯誤しながら問題・課題への解決策を探る喜びを味わえるような教師の援助の工夫

～パーティで思いを果たせなかった幼児の思いに触れる場を設定した話し合い活動より～ 〈学級全体の考察〉

- ・パーティで思いを果たすことができなかった幼児の思いに触れる場を設定し、それぞれの思いを言葉にして表出させた。自分が理想とする形でだるま落としを披露できなかった子の「ちゃんと成功させたい。」という思いを受け、その子の思いを果たす場を幼児と共に作ったことで、その子の成功を喜び合うことができた。
- ・パーティでだるま落としを披露したが「本当はこままわしもやりたかった。」と言う男児。やりたい思いを果たすためには皆に思いを伝えることが必要だったと多くのアドバイスが飛び交い、披露できる場を皆で作り、男児の成功を喜び合った。
- ・思いを果たせない複雑な思いを発散させようとしてきた友達(上記二人)の姿に戸惑い、披露に向けグループで決めた目的やルールを大事にできず、予定していた形での披露に時間がかかってしまった紙コップタワーグループの思い、混乱の原因となった二人の思い、同じ空間で違和感を感じながら見ていた幼児それぞれの思いを皆で共有できるように援助したことで、自分達でお楽しみパーティを最後まで楽しむためにどうすれば良かったかを皆で考えることができ、今後の学級活動への意欲へとつなげることができた。

(2) 抽出児の考察

本研究においては抽出児3名に視点をあて、園生活や遊びに取り組む際の言動を観察しながら変容を見ていく。

<p>思いを伝えることが苦手なA児</p>	<p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年中児の頃より年長組に憧れ、進級を喜び、新しい友達との出会いを喜んでるが、自信のなさから様々な遊びや活動に取り組む際に不安が強く、活動に意欲的に取り組むことが難しい。また、自分の思いや考えを教師や友達に伝えることが苦手である。 	<p>11月15日(月)動物園作り①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決めでは「動物の赤ちゃんコーナー作りがいい。」と自分の思いを伝えることができたが、いざ活動がスタートすると不安な表情で活動に取り組めないでいた。何をどう作りたいのか、寄り添いながら言葉をかけたり、グループの仲間の様子に気付かせながらイメージを持てるよう援助した。 	<p>11月19日(金)動物園作り③ 本時</p> <p>教師「今日は何をするのかな？」 A児「猿の赤ちゃん作りしたい。」 教師「雲梯で遊ばせる猿いいね、頑張ってるね。」 A児「けどさ、作りたいけど作れるか心配。」 教師「グループの仲間に相談してみたら？」 A児「D児が作るの上手だから聞いてみる。」 教師「いいね、D児さんに何て言うの？」 A児「えっと・・・作り方教えてって。」 教師「いいね、頑張ってお願ひしてみてね。」</p> <p>その後、作り方を教わり、猿の赤ちゃんを作ると「赤ちゃん10匹き作る。」と新たな目標を持ち、仲間と一緒にたくさんの猿の赤ちゃんを作ることができた。仲間と同じ空間で作業をするA児の表情から笑顔も見ることができた。</p> <p>振り返りの場では「D児に猿の赤ちゃんの作り方を教えてもらおうのが嬉しかった。」と、自ら皆の前で自分の思いを伝えることができた。</p>
	<p>検証保育Ⅰ</p>	<p>11月16日(火)動物園作り②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの仲間の姿から「動物の赤ちゃんが遊べる雲梯を作りたい。」とイメージを持ち、教師に伝えることができた。本児の思いを仲間に伝えると「枝で作ったら？」と仲間が材料選びを手伝う。なかなか作ることにとりかかれぬA児の姿をグループに気付かせると「こんなしたらいいんじゃない。」と仲間が手伝い、仲間と一緒に雲梯を完成させることができた。完成を喜び、仲間に「ありがとう。」を伝えるA児に「次は何が必要？」と尋ねると「雲底で遊ばず赤ちゃん。」と答え、更なるイメージや目標が持てた。 	<p>11月7日(金)プログラムや役割を決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割決めの際に「司会をやりたい」と自ら訴えたり、友達が「人形劇をやりたい」と発言すると「Aもやりたい」と仲間に加わり、その後の友達とのやりとりの中でどんな劇にしたいか積極的にイメージを伝える姿も見られた。活動に取り組む姿を見取りたかったが登園自粛となった。



友達との関わり合いが苦手なB児	<p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな遊びや活動には意欲的に取り組むことができるが、興味のないことや活動には参加するまでに時間がかかる。また、自己中心的な言動から、周囲を困らせてしまうことがある。自分の思いはのびのびと表現できるが、友達の話聞くことが難しい。 	<p>11月15日(月) 動物園作り①</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ハブを作りたい。」と、ハブグループに加わっているが、友達との関わりは見られない。段ボールを切ってつなげ、自分なりのイメージを実現させようと試したり工夫したりしている。 	<p>11月16日(月)動物園作り①</p> <ul style="list-style-type: none"> グループの仲間が図鑑からハブの体長が2mと調べ、2mとはどのくらいの長さだろうと、定規を使って考えている。B児も興味を示し、自分の作っているハブの長さ比べ、「2mよりも長いハブを作る。」と張り切るが、段ボールをはさみで切る作業に疲れ、「もう無理、疲れた。」と弱音を吐くと、それを聞いていた仲間が何も言わずに手伝ってくれた。するとミニほうきを持ち出し、切りくずを集め、更にグループの仲間の切りくずも集め、作業場所をきれいにしていた。友達の温かい関わりを受けたB児なりの感謝の気持ちの現れと捉え、「皆が気持ちよく作業ができるようにB児がきれいにしているね。」と周囲に気付かせ、B児の思いや行動を認める言葉をかけた。 	<p>11月19日(金)動物園作り③ 本時</p> <ul style="list-style-type: none"> 2mより長いハブを作り終えると、グループの仲間のハブのお家作りを自ら手伝ったり、別のグループのE児の困り感に気付いて手伝ったり、E児の要求を教師につないだりする姿が見られた。振り返りの場で、E児が「B児が手伝ってくれて嬉しかった。」と発表するとB児に笑顔がこぼれ、その後の友達の発表に耳を傾けて聞こうとする姿が見られた。 
	<p>1月7日(金)プログラムや役割を決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級で唯一けんだまができることに自信を持ち、披露したいと練習に励む。その姿に刺激を受けたY児から「一緒にやりたいから教えて。」と頼まれ懸命に教えるも、成功させたい思いから言葉が乱暴になりY児が涙を流した。周囲からY児の気持ちに配慮した関わり方が必要だったと気付かされ、その後はY児の思いに寄り添いながら関わり、Y児の成功を自分事のように喜んでいった。 	<p>11月12日(金)話し合い活動の中で…</p> <ul style="list-style-type: none"> Y児と共に披露することを楽しみにしていたがY児が登園自粛となる。他児は少人数で披露するがB児は一人での披露となったため「少し心配になってきた。」と不安な思いを皆の前で打ち明けた。不安な思いを受け止め、周囲にB児と同じ境遇になったらどんな気持ちになるかと投げかけた。「怖くなる。」「もうやりたくないって言いたくなる。」と自分と同じように不安になるという言葉に胸をなでおろすB児。「でもB児はできるよ。一番上手だしB児のけんだまが見たい。」という仲間の声に「わかった。頑張るよ。」と決意を言葉にして笑顔を見せた。 	<p>1月18日(火) 本時</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊張から普段通りにいかず、成功までに時間がかかるB児に周囲から自然と「頑張れ。」と応援の声があがった。その声に応えようと思うほど緊張が増す中、自分を落ち着け成功させると周囲からたくさんの拍手をもらい、達成感を味わうことができた。 	
	<p>1月7日(金)プログラムや役割を決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 「Cがたんぼぼ組だった時にお姉ちゃん達がやっていた人形劇をやりたい。」と皆に提案。憧れていたことに挑戦しようと、具体的なイメージを皆に堂々と伝える姿が周囲に刺激を与え、共にやりたいという仲間が増え嬉しそうだった。 	<p>11月15日(月)動物園作り①</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間と活発に思いや考えを伝え合いながら製作に取り組む中で、C児が自分の思いを押しつけようとした。皆が合意しないことと楽しくないことをC児に伝えたいとF児から教師へ訴えがあり、F児と共に伝え方について考えた。F児の思いを具体物を使って説明したことで、C児なりにF児のイメージを理解し、受け入れることができた。互いの得意を活かしながら役割を分担して製作を進め、赤ちゃんぞうを完成させることができ、仲間と一緒に遊びを進める楽しさを味わったことを認める言葉をかけた。 	<p>11月16日(火) 動物園作り②</p> <ul style="list-style-type: none"> 前日より大きいお兄さんぞうを作るという仲間との共通の目的に向かい取り組む中で、C児が作業しやすいように仲間がペンを手渡したり、バランスが崩れないようにと反対側から押さえてくれたことで、本児も仲間が作業しやすいようにと自分のできることを探して手伝い「ありがとう。」と互いの優しさに感謝の気持ちを伝え合っていた。 	
自己主張が強いC児	<p>1月7日(金)プログラムや役割を決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 「Cがたんぼぼ組だった時にお姉ちゃん達がやっていた人形劇をやりたい。」と皆に提案。憧れていたことに挑戦しようと、具体的なイメージを皆に堂々と伝える姿が周囲に刺激を与え、共にやりたいという仲間が増え嬉しそうだった。 	<p>1月13日(木)パーティへの取り組み①</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達とイメージを出し合いながら人形作りを楽しむ中「Fの作る人形がかわいいから交代したい。」と詰め寄り困らせた。Fに困り感や自分の思いをC児に伝えるよう投げかけた。Fの思いを聞き、その思いを大切にできたC児だが交代できず悲しいと涙を流した。Fの思いを大切に受け止めた姿を認め、交代できない事実を受け今後どう進めれば良いのかを周囲も巻き込み投げかけた。「Fみたいな人形がいいならもう1回作ったら?」「C児が作った人形もかわいいのにな。」という周囲の声を聞き自分の人形に自信が持ったのか「これで劇する。」(劇に参加する)と切り替えることができた。 	<p>1月7日(金)プログラムや役割を決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> イメージやアイデアが豊かで、遊びを工夫したり試したりして発展させることができるC児のよさを周囲に伝えたり、自分の思いや考えのように友達にもたくさんの思いや考えがあることに気付かせ、相談し合い力を合わせることで遊びや生活がより楽しく豊かになる経験を援助してきたことで、自分の思いを調整しようとしたり、友達の思いや考えにも耳を傾け大切にしようとする心育が育ってきた。 	

以上のことから検証保育Ⅰの①②の手立て、検証保育Ⅱの①②の手立てに加え、個の実態に応じた「人・もの・こと」へつなぐ教師の言葉かけや援助の工夫を行った。そのことで幼児なりに動物園作りやお楽しみパーティに興味や関心を寄せて取り組んだり、友達との関わり合いや言葉による伝え合いを楽しんだりすることにつながったと考える。

今後も抽出児一人一人が活動の中で自分のよさを発揮したり、友達のよさを認めたりしながら園生活を主体的に楽しむことができるよう、幼児の内面の育ちを大切に、個に応じて言葉かけや援助の仕方を工夫していく。

Ⅶ 研究の成果、課題・対応策

1 成果

- (1) 幼児の興味・関心を捉えた協同性のある遊びや環境を幼児と共に展開したことで、遊びに期待や意欲を持って主体的に関わり、幼児同士の関わり合いや言葉による伝え合いが増えた。
- (2) 園生活の様々な場面で教師が一人一人を肯定的に受け止め、幼児の思いや考えのよさを認め価値づけ周囲に広げたことで、幼児同士が互いのよさに目を向け認め合えるようになった。
- (3) 遊びや振り返りの場において互いの思いや考えを伝え合う姿を大切にしてきたことで、友達の思いに耳を傾け相手の気持ちや思いを大切にしたり、自分事のように受け止めよりよい考えや解決策を共に探ろうとする姿が増えた。また、仲間と協力し合ってよりよい遊びや生活を創り出そうとする意欲や学級の温かい雰囲気へとつながった。

2 課題・対応策

- (1) 友達との関わり合いの中で、相手の思いや考えを受け入れようとする態度に個人差がある。自分の思いを調整したり折り合いをつけようとしたり、葛藤している相手の気持ちを理解して受け止め、互いの成長のために力を合わせていけるような学級の雰囲気を幼児と共に作ってきたい。
- (2) 長期的な欠席が続く幼児への支援の在り方が課題である。コロナ禍に伴い、集団生活や仲間との関わり合いの経験が十分に得られなかった幼児が複数いる。また、長期的な欠席が続く幼児もいる。保護者や関係機関との連携を深め、教師との信頼関係を基盤に仲間との関係作りへ繋げていき、就学先である小学校へきめ細やかな引き継ぎを行っていく。

〈参考文献〉

- 横山真樹子 2020 『子どもの育ちと「ことば」』 教育情報出版
- 文部科学省 2019 『幼児理解に基づいた評価』 チャイルド本社
- 大豆生田啓友 2019 『保育・教育シリーズ言葉の指導法』 玉川大学出版部
- 文部科学省 2018 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館
- 文部科学省 2017 『幼稚園教育要領』 東山書房
- 国立教育政策研究所 2005 『幼児期から児童期への教育』 ひかりのくに株式会社
- 神長美津子 2000 『保育の基本と環境の構成』 ひかりのくに株式会社
- 神長美津子 2000 『心を育てる幼児教育』 東洋館出版社